

第2回 HSH運営指導委員会並びに学校評議員会の概要

1 日 時

令和3年3月18日（木） 11:45～12:55

2 場 所

東リ いたみホール 5階会議室

3 出席者

別紙参照

4 協議の概要

(委員) 今後、重点目標として英語力の強化に取り組んではいかがでしょうか。国際活動において海外との交流を進める上でも英会話力がいかに大事かは学校も認識されていると思う。事業の取組にメリハリをつけて生徒の学力向上につなげてほしい。

(学校) 英語力の向上については、HSH の設定目標の中で英語による発表を行う人数を増やそうと設定している。今年度はコロナ禍の中、難しい状況であったが、来年度はぜひ英語発表を実現できるように努める。

(委員) 5つの活動を進めるというプロジェクトについて、それぞれの活動の検証と改善をどのように図るのが課題だと思う。

特に探究活動について、本日の成果発表会を学校としてどのように評価しているのか。生徒に達成させる探究活動のイメージを学校として決め、次年度にその理想像に近づけていくために学校としてどのように取組むのか、プランが必要である。

(学校) 学校としてはコロナ禍の中、成果発表会までできたのでホッとしているというのが正直な感想だ。

臨時休業となり、教職員と生徒とのコミュニケーションや保護者との連携等がオンラインに頼るような状況のなかで、探究活動でのグループワークや調べ学習について、どこまで求めるのかの見極めがかなり難しかった。

しかし、生徒たちはよく頑張り、自分で調べて発表するという機会を持つことができた。不十分な点はあったとしても、学校としてはベストの発表であったと受け止めている。成果発表会で生徒たちにいただいたアドバイスはわかりやすく、探究活動の課題も含め、来年度に活かしていく。

(委員) 予期せぬコロナの影響の中、学校としては大変お苦勞されたと思うが、来年度もコロナ禍は続くことが予想される。今後、国際活動の制限があることも想定して来年度の計画立てるべきだと思う。

また、本年度は教員による研究授業等によく取り組まれたと思う。中学校などではよく取り組まれているが、教員が相互に授業を公開し、高めようとする日常の取組は高等学校では一つの「財産」だと言ってよieldろう。

(学校) いろいろとアドバイスいただいたが、国際活動に関してはまだ先が見えない状態の中、実施できる場合と実施できない場合とを2本柱で考えながら進めていきたいと考えている。

(委員) 学校評価に矛盾を感じる部分がある。たとえば、学校評価の「健やかな体」の育成について、総合評価は「A」なのに、記述項目では、「体育館の気温湿度の測定方法は改善が必要」や「交差点での安全意識が不十分」と記されていて、分かっているのにしないように受け止められる。

また、別の記述項目に「ICT機器の対応力が急務」と「ICT推進委員会が機能的に活動」とが併記されている。個々だけ見るとこの二つを併せて見ると推進委員会だけに業務負担をさせているように見える。できなかったことについては、なぜできなかったのかまで丁寧に説明する必要がある。

(学校) 学校評価には学校関係者評価を記載する項目があるので、今の御指摘を記載させていただくこととする。

(委員) 学校評価の教職員自己点検項目のうち、定時退勤日とノー会議デーが一番低い。高校生にコロナ対策を指導しながら学校教育を進めるのは難しかったのではないか。教職員の心身の健康は生徒たちにも影響することであり、管理職が率先してメリハリある対策を実施する必要があると思う。たとえば、パソコンの管理が考えられる。企業の場合であれば、時間を決めてネットを遮断するなどの取組をしている。

成果発表会については、企業や行政ではプレゼンテーションのノウハウや課題研究の事例をたくさん持っているので、たとえば理系の生徒が一度企業の研究を参観するなどして、一緒に勉強会などが可能であると考え。その課題について専門にしている企業や行政を一度訪問して、問題意識を高めた上で研究に取り組めば、さらに深い探究が可能となると思う。

(学校) 働き改革に関わって、現在、県立高校では業務時間外の電話はテープによる対応としている。今後、ネットワークの管理についても、定時退勤日を設定している日など、可能なところから検討したい。

また、企業や行政への訪問については、本校としても連携していただけたところを探している。今後、進めさせていただきたい。

(委員) 学校評価については、教職員の自己評価だけではどうしても甘くなるように思うので、生徒や保護者のアンケートを取り、教職員の結果と比較している。両者の結果の差がある項目に着目すれば、改善に繋げることができる。

また、総合評価について、肯定的な意見が8割以上でAのような学校独自の指標を定めてはどうか。教職員の自己評価についても、独自の指標があれ

ば具体的な目標となるのではないか。

成果発表会については、中学校でも様々な表現力の育成に取り組んでいる。たとえば、市内中学校の理科の自由研究発表会を実施している。中学校の優れた発表が参考になるのではないか。

また、中学校の発表会では聞いている生徒からもいっぱい質問が出る。本日の成果発表会は大人からの質問だけであったが、生徒も質問できるようにすればどうか。

(学校) 生徒や保護者のアンケートとの比較による教職員自己評価の検証など、いただいたアドバイスを参考にさせていただく。

(委員) 高校生は一生かかわりができる人間関係ができる、人生の中でほんとに貴重な3年間であるという認識している。自分の経験から言っても、高校のときの恩師や同級生、先輩、後輩のつながりが一番大切だと思う。

ついては、豊かな心の育成 学校重点さらに充実していただきたい。近年は他校でも転退学者が多いと聞く。それぞれに理由があつての最終的な判断だと思うが、そうならないようにしっかりケアをしていただければと思う。それは、人間力の育成の取組として、教職員一人一人の全感覚を持って、生徒の特性に応じて取り組んでいただくことだと思う。

生徒が学校生活を楽しみ、教職員や友達とのコミュニケーションを楽しみに学校へ通うよう御指導いただきたいと思う。人間の一生の中での貴重な3年間が、卒業後で振り返ってまぶしい財産となるよう願っている。PTAとしても全面的に協力していきたいと思う。

(学校) 今おっしゃったような心のつながりに関しては学校としても大事だと思っている。たとえば、令和2年度にコロナによって実施できなかった修学旅行も形を変えて4月に実施する予定である。今後とも学校生活を楽しむことができるよう教育活動を計画したい。